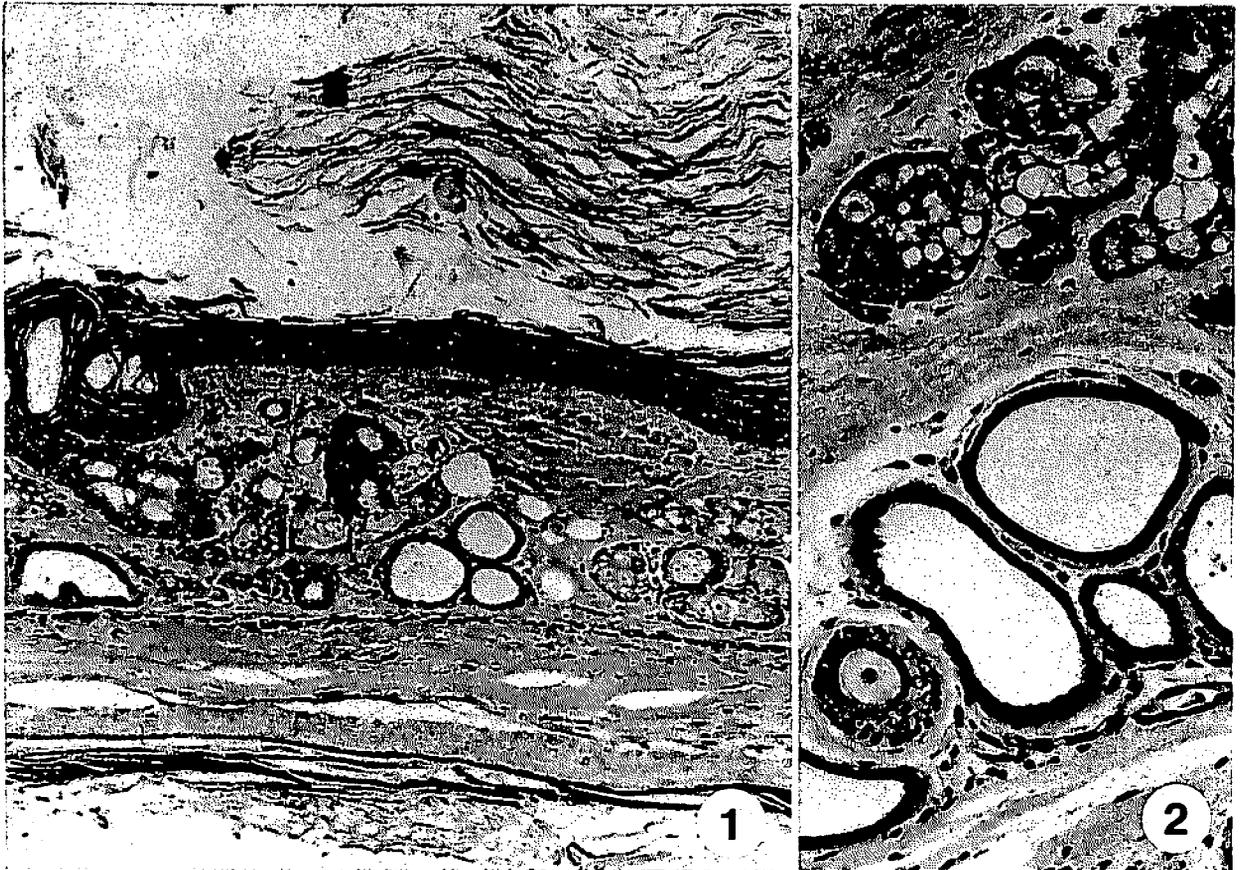


犬の卵巣腫瘍

大阪府立大学農学部家畜病理学教室出題 第27回獣医病理学研修会提出標本No.480



動物：犬，雑種，雌，4歳，体重48kg。

臨床的事項：1986年10月31日，本学家畜病院で避妊のため子宮・卵巣の全摘出術を受けた。本犬は生後半年目の春以来，春・秋に発情し，術前にも9月27日から性器出血があった。しかし，分娩したことはない。これ以外の既往症は特になく，術後も元気である。

肉眼所見：摘出された卵巣・子宮のうち，右卵巣はテニスボール大に腫大していた。この腫瘍は充実性であったが，指圧により陥凹した。断面は多房性で大小の嚢胞を形成し，腔内には多数の毛と褐色及び白色の脆弱な皮膚臭の強い組織を容れていた。一部に骨様の刀抵抗を示す硬組織が存在した。卵管に近い部に黄体を含む正常卵巣組織を認めた。左卵巣は特に異常なく，5個の黄体が存在した。左子宮角に体長2.7cmの生存胎仔1頭を認めた。

病理組織学的所見：嚢胞壁は脂腺，汗腺を伴った角化重層扁平上皮より成り，皮膚と同じ組織構築を

示した(写真1,×100)。胚芽層の上皮細胞には，ごく少数の核分裂像を認めたが，細胞の異型性は乏しい。胚芽層及び真皮に相当する部にメラニン細胞を認めた。真皮から皮下織に相当する結合組織及び脂肪組織中に毛根，脂腺，筋上皮細胞でとり囲まれた汗腺が単在あるいは集団的に存在した(写真2,×230)。このほか，リンパ球の集簇，肥満細胞，血管，末梢神経線維束を認めた。嚢胞腔内には多数の毛の断面及び角化物の貯留を認めた(写真1)。

なお，当該腫瘍の他の組織標本では，塊状あるいは断片的に中枢神経組織(神経細胞，神経線維，脳室脈絡叢など)，眼球(網膜，水晶体，硝子体など)，骨，軟骨，骨格筋，呼吸器粘膜(多列線毛円柱上皮，杯細胞)が認められ，三胚葉に由来する組織が混在していた。

病理組織学的診断：皮様嚢腫dermoid cyst(成熟型奇形腫mature teratoma)。